

Distribution: Eastern Siberia, Manchuria, China, Korea and Japan.

Considering from the chemical constituents, it is clear that *Angelica glabra* is not synonymous to *A. dahurica* and the latter can be assumed to be derived from *A. archangelica* Linn., a native of northern Europe and Siberia.

## 文 献

- 1) 藤田: 植研 **38**: 309 (1963). 2) 刈米, 泰: 薬誌 **76**: 649 (1956); 刈米, 木村: 最新和漢薬用植物 131 (1959); 北村, 村田: 原色日本植物 図鑑, 中: 29 (1961). 3) Stuart: Chinese Materia Médica, 41 (1911); Laufer: Sino-Iranica: 358 (1919); 佐藤: 漢薬の原植物: 40 (1959). 4) 野口, 河南: 薬誌 **58**: 370, 578, 1052 (1938); **59**: 755 (1939); **61**: 77 (1941); Ber. **71**: 344, 1428 (1938); **72**: 483 (1939). 5) Drude: Engler, Prantl; Nat. Pflanz.-famil. III, **8**: 220 (1898); Newcomb, Darbaker, Fischer, Gathercoal: Kramer's Sci. App. Pharmacognosy: 571 (1928). 6) Clarke in Hooker: Flora Brit. Ind. **2**: 707 (1879); Handa, Chopra, Sobti in Gildemeister: Äth. Öle: **6**: 488 (1961). 7) Späth, Pester: Ber. **67**: 853 (1934); Späth, Pailer: Ber. **67**: 1212 (1934); **68**: 940 (1935); Späth, Bruck: Ber. **70**: 1023 (1937); Svendsen: Chem. Abstr. **50**: 7963 (1956). 8) Späth, Vierhapper: Ber. **70**: 248 (1937); **71**: 1667 (1938); Monats. Chem. **72**: 179 (1938).

□ 植物形態学会の発足 植物学の一部門に形態学があり, 分類の基礎も実はその把握の基盤に形態の正しい認識が必要である。一方では近年形態形成や生長分化が注目をひき, またさらに分子生物学の発展や電子顕微鏡による微細構造の解析の進歩など, 形態の基本についての知見もふえ, 形態をずっとひろい視野からみようとすする新しい形態学を進めようという機運もみなぎって来た。これに応じて今年の岡山で開かれた日本植物学会第 28 回大会の機会に有志が集って植物形態学会を作った。植物の形態に積極的な興味を持つ人はだれでも会員になれるから, 本誌の読者からの参加を希望する。仕事として, 先ず関係文献のリストを速報する印刷物を発行し, ゆくゆくはそれに会員の論文や報告も載せる考えであり, 年に 1 回は植物学会の大会の時に会合する外, 形態学を中心としたシンポジウムなどを催して会員相互で討論して研究をすゝめることも考えられている。入会希望の方は東京都文京区本富士町, 東京大学理学部植物学教室, 系統発生研究室気付, 植物形態学会宛に直接申込まされたい。会費は年 ¥500。(前川文夫)